

## 講義レジュメ

講 師 古矢鉄矢

内容・テーマ

大学機能の開放・拡充

期 日 平成27年8月18日(火)

近年、大学においては地域連携センターや地域連携室といった、大学内の様々な機能を集約し地域に開かれたワンストップ窓口を設立する動きが盛んである。取組は、市民大学など生涯学習の普及・拡大、教育・研究成果の発信・普及、技術移転、地域社会とのネットワークの構築、地域の様々な主体と連携したまちづくりなど自ら積極的に地域と関わる例が少なくない。一方、地域への関わりには大学の期待も込められている。学生教育の場と機会を広げ、主体性、社会適応力、社会的職業的自立能力を地域の支援を得て育成したいとの願いがある。

大学と地域という一対一の関係を越えて、大学を含めた地域の構成員がコンソーシアムを結成し、学生・市民教育をはじめ、ボランティアの育成、産学連携による研究・技術開発、ものづくりなどを組織的に行う活動も広がっている。全国大学コンソーシアム協議会(京都)に加盟する北海道から鹿児島までの45団体が一役をかつている。講師が役員を務める公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム(通称さがまち)も協議会に加盟する団体である。

さがまちは、学生と市民の協働による「魅力あふれるまちづくり」を目的とする。大学、NPO、企業、公益団体、行政など多様な機関をもって構成され、活動目標を「地域市民の生活の質(QOL)向上」に集約している点は、他の大学コンソーシアムにはない特徴である。事業の柱を教育学習事業、人材育成事業、地域発展事業とし、さがまちカレッジ、地域プロモーターの育成、インターンシップ、学生のキャリア支援、CATV番組制作など18事業を推進。まちづくりでは公民館と連携した事業にも取り組んでいる。

生涯学習社会においては、様々な学修の機会が用意され誰もがいつでも学べること、得られた学修の成果をキャリアアップと社会の発展に役立てることが望まれている。社会教育と学校教育が密接に連携し、多様な学修の機会と成果の活用の仕組みを体系的に構築することが重要であろう。大学・市民・地域(団体)はさらなる協働を求めている。大学は学生が社会性を身に付けその成長を願っている。市民は協働の楽しさと達成感を望んでいる。地域はシビックプライド(市民の誇り)の下、学生・市民による快適なまちづくりを待望しているのである。

本講義では、大学における社会連携の意義とその取組を最近の動向を交えて紹介する。全国大学コンソーシアム協議会の活動にも触れる。さがまちの「まちづくり」の取組については事例を交えて詳しく紹介する。社会教育主事として、今後大学や大学コンソーシアムが有する機能を有効活用する上で参考にしていただければ願ってもないことである。

---

### [参考文献]

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター(2013)「企業とボランティア活動に関する調査研究報告書」pp.68~pp.75